

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム ささゆり苑

日付 平成19年3月19日
 特定非営利活動法人
評価機関 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

ホームのリビングの廊下には、ちぎり絵、塗り絵、風景画と、利用者の作品がずらりと並んでいる。グループホームの作品と侮る事なかれ！そこはさながら小さな美術館。このホームに入って絵を描き始めた男性の風景画は、色鉛筆で描いたとは思えぬほど力強い。「すぐに鉛筆がちびてなくなる」と彼は笑う。「ちぎり絵は時間がかかるから塗り絵にする」そう言って始めた女性の花の絵は、何色も色を重ねて繊細で細やか。そして、ちぎり絵がこれまたすごい。経費削減のため包装紙を利用し、ない色だけ色紙を使っているが、深みのある素晴らしい出来栄だ。昼下りのリビングは作業場と化す。職員は手分けして包装紙を調達、利用者はそれを細かくリボン状にちぎる、さらに細かく貼り絵用にちぎる人もいる。ちぎったパーツは色分けして、ビニール袋にまとめる。職員の描いた下絵に合わせ、重ならぬようパーツを更にちぎって調整しながら貼っていく人がいる。それぞれ出来る事、好きな事をする分業制。利用者は近隣の農業従事者が多い。比較的軽度の人が多い事もあるが、几帳面に気長にこつこつ取り組めるのは、長く農作業をこなして身に付いた性分かもしれぬ。「忍耐と辛抱」と言って明るく笑う。完成作品は掲示され、それを見た皆がびっくりにして誉める。それが又励みになる。認知症になると今まで出来ていた事が次第にできなくなると失われる能力にばかり気を取られ、未経験の事でも出来るかもしれないという未知の可能性を、私達は見過ごしているのではないだろうか？無心で取り組む芸術家達を見て、本気でそう思った。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

バイタルや介護日誌等、書類はきちんと記録できている。だからこそこの提案だが、さらにその人の言動やエピソードを書き留めていって欲しい。ホームに入所して退所するまで、どう過ごし、どう変わっていったか？それを書き残せるのはいつも傍らに居る職員しかいない。その記録はその人の生きた生活史だ。比較的軽度の利用者が多い今だからこそ、是非取り組んで欲しい。管理者は「ここを退所する時プレゼントしようと思って準備している」と個別アルバムを造りかけていた。その写真と合せると素晴らしい人生史になる。本人、家族にとってもかけがえのない宝物となるだろう。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物への支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	計算ドリルのプリントと格闘しているAさん。暗算で掛け算や筆算をこなす。彼女は元女学校の優等生、成績は2番くらいだったそうだ。出来たら職員に見てもらおう。職員は「暗算ではとても出来んわ」と笑って電卓で答え合わせ。「すごい！全部正解」彼女は大満足。その横でBさんはDVD見ながら大声で好きな歌を大熱唱。塗り絵をするCさん、ちぎり絵の紙をちぎるDさんとEさん。せつせと、ちぎってくれた紙を下絵に貼って仕上げっていくFさん。リビングでそれぞれ好き勝手に過ごしている。「利用者には、出来る事、好きな事をしてもらって、今ある機能を生かしながら生活して欲しい。無理強いはいしたくない」と言っていた管理者の言葉を思い出し、成る程これかと納得した。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	設立は平成12年、県内でもバイオニア的存在のホームだ。周辺集落は過疎の村、偏見もあった。ある利用者の家族は入所申し込みをしながら、直前になって「やっぱり、できない」と3回も断念したそうだ。しかし今では「こんな事ならもっと早く入所していたら良かった」と言ってくれる。口コミで評判が伝わり、次第に判ってもらえた。管理者は地元の人、職員や利用者も近隣の人が多くお互い判り合えるメリットもある。地元小学校(全校生徒13人)は2~3ヶ月に一度慰問に来てくれる。年2回奉仕活動として落ち葉掃除等してくれる。「見てられん、ゴミ袋だけでも持つとる」利用者も子供と一緒に。校長は「行く所があっていい」と授業の一環として実施。子供達も喜んでもらえる嬉しさを体験できている。近所の人も農作物を届けてくれる。地元町内会は「ささゆり苑への奉仕活動」で表彰された。人里離れた山間で、地域に根付き、愛され、支えられ、地域の人と共に暮らすグループホームの理想の姿を見た。		

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「昔の大人数の家族の様に家庭的な環境の中で過ごして欲しい。地域の行事には参加して、又ホームにも来てもらいたい。地域の人と共にありたい。以前はマニュアルを気にした時もあった。でも、こちらに合わせるは無理な話だと思ふ。70年、80年と生きてきて、なんで今さらやりたくない事をしなくてはならないのかと思いませんか？」と管理者は言う。「そうだ、その通り！」利用者の事を親身になって考えている気持ちが伝わってきて、心の中で拍手喝采！アルバムには成羽祭り、運動会、渡り拍子と、地元の人や小学生達との楽しそうな交流の写真満載だ。実践を通して、管理者、職員、利用者が大きな家族となり、地域の中で認められ、受け入れられているのがよく判った		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 「冤追いしかの山、小鮎釣りしかの川」まさにびっりのロケーションの中、みんなで大合唱。ここはホーム近くの氏神様、みんなの大好きな散歩コースだ。氏神様をお参りした後石段に座って、職員の持って来てくれた歌詞カード見ながら私も仲間入り。「ささゆり苑合唱団やね」「神様もびっくりするなあ」青空の下、緑いっぱい木々に囲まれ思いっきり歌う。実に気持ちがいい。歌がずれて、輪唱になっているのが可笑しい。「夫を早くに亡くしたので、私は30年以上土方をして子供を育てた。もう89歳だけど鍛えているから、背中も曲がらず、足腰も大丈夫」と威張る人。「足が弱ってきた。やっぱり歩かないといけん」とやる気満々の人。氏神様のご加護を受けて、どの人も生き生きしている。今まで暮らしていた土地で、同じような生活をしてきた者同士、共に過ごす安らぎに満ちていた。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人できることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		